

宮崎県感染症週報

宮崎県薬務感染症対策課・宮崎県衛生環境研究所

令和6年第34週の発生動向

□ 全数報告の感染症 (34週までに新たに届出のあったもの)

- 1類感染症：報告なし。2類感染症：結核5例。
 3類感染症：腸管出血性大腸菌感染症2例。4類感染症：報告なし。
 5類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症1例、梅毒3例。

	疾患名	報告保健所	年齢群	性別	病型・類型	症状等
2類 結核		宮崎市	90歳代	女	肺結核	咳、痰、発熱、呼吸困難
		都城	80歳代	女	肺結核	発熱
			90歳代	女	肺結核	咳、発熱
		延岡	50歳代	女	結核性胸膜炎	発熱、胸痛、倦怠感、食欲不振
		日南	80歳代	男	結核性胸膜炎	発熱
3類 腸管出血性大腸菌感染症		宮崎市	20歳代	女	—	腹痛、軟便、O115(VT1)
			20歳代	女	—	腹痛、水様性下痢、発熱、O157(VT1,VT2)
5類 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 梅毒	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	宮崎市	80歳代	女	—	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群
	梅毒	宮崎市	20歳代	女	早期顎症梅毒Ⅰ期	鼠径部リンパ節腫脹
		都城	40歳代	女	早期顎症梅毒Ⅱ期	梅毒性バラ疹
		延岡	40歳代	女	早期顎症梅毒Ⅰ期	硬性下疳

□ 定点把握の対象となる5類感染症

・定点医療機関からの報告総数は848人(定点当たり21.3)で、前週比111%と増加した。なお、前週に比べ増加した主な疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、感染性胃腸炎、手足口病及びヘルパンギーナで、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症であった。

★インフルエンザ・小児科定点からの報告★

【新型コロナウイルス感染症】

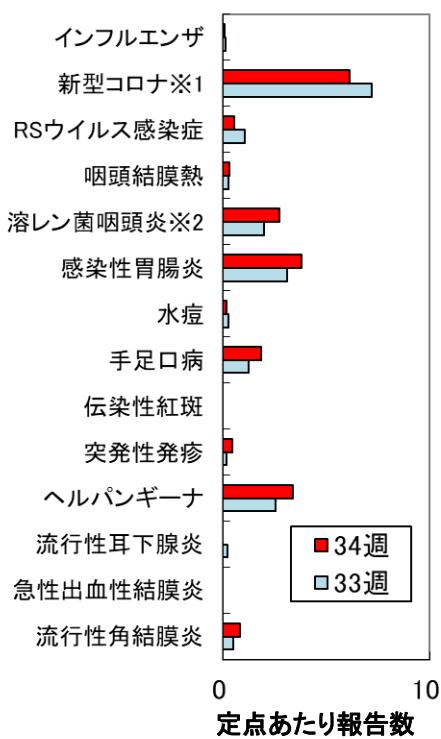
報告数は356人(6.1)で、前週比85%と減少した。高千穂(10.5)、中央(8.0)、高鍋(7.8)保健所からの報告が多く、年齢群別は15歳未満が全体の約3割を占めた。

【A群溶血性レンサ球菌咽頭炎】

報告数は98人(2.7)で、前週比136%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.1)の約2.5倍であった。中央(7.0)、宮崎市(4.3)、延岡(3.8)保健所からの報告が多く、年齢群別は4歳から8歳が全体の約6割を占めた。

* 過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

《前週との比較》



※1 新型コロナウイルス感染症

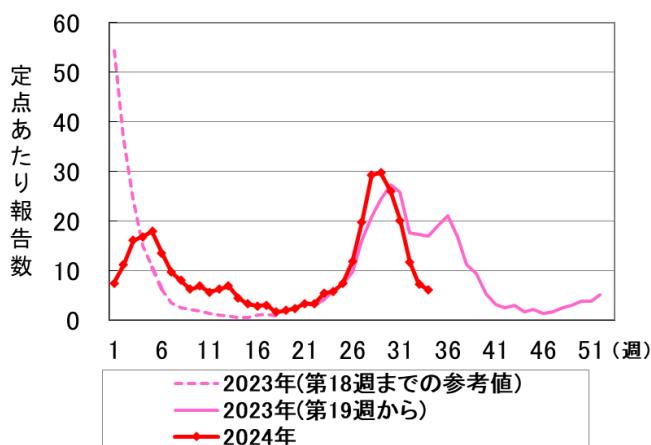
※2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

【ヘルパンギーナ】

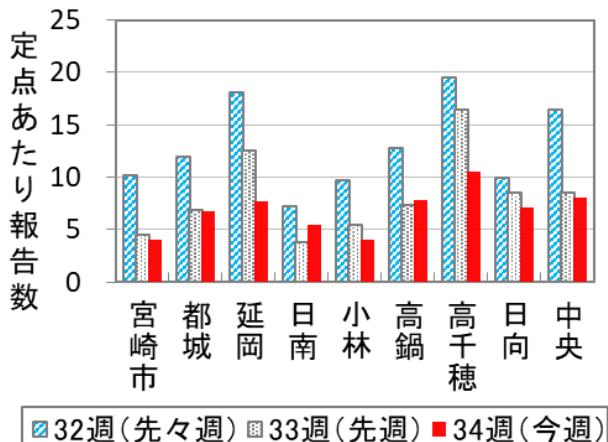
報告数は 122 人(3.4)で、前週比 135%と増加した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.3)の約 2.7 倍であった。宮崎市(6.0)、日南(6.0)、中央(6.0)保健所からの報告が多く、年齢群別は 1 歳から 3 歳が全体の約 6 割を占めた。

* 過去 5 年間の当該週、前週、後週(計 15 週)の平均

新型コロナウイルス感染症 発生状況

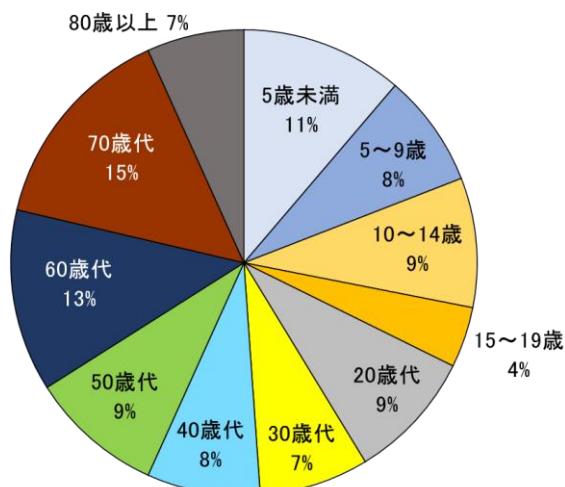


新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3 週分)

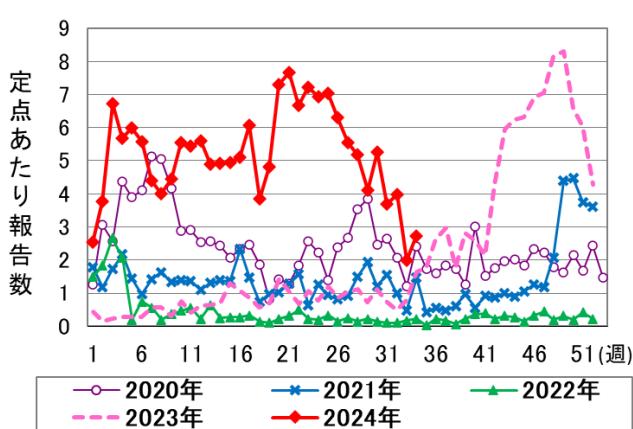


※新型コロナウイルス感染症の 2023 年第 1 週
～第 18 週分のデータは、定点医療機関から
の報告数をもとに算出した参考値

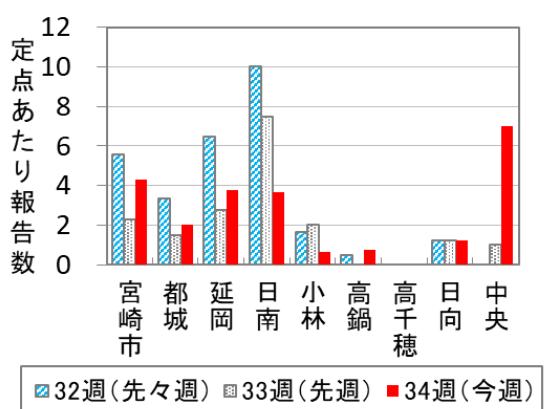
新型コロナウイルス感染症年齢群別グラフ(第 34 週)

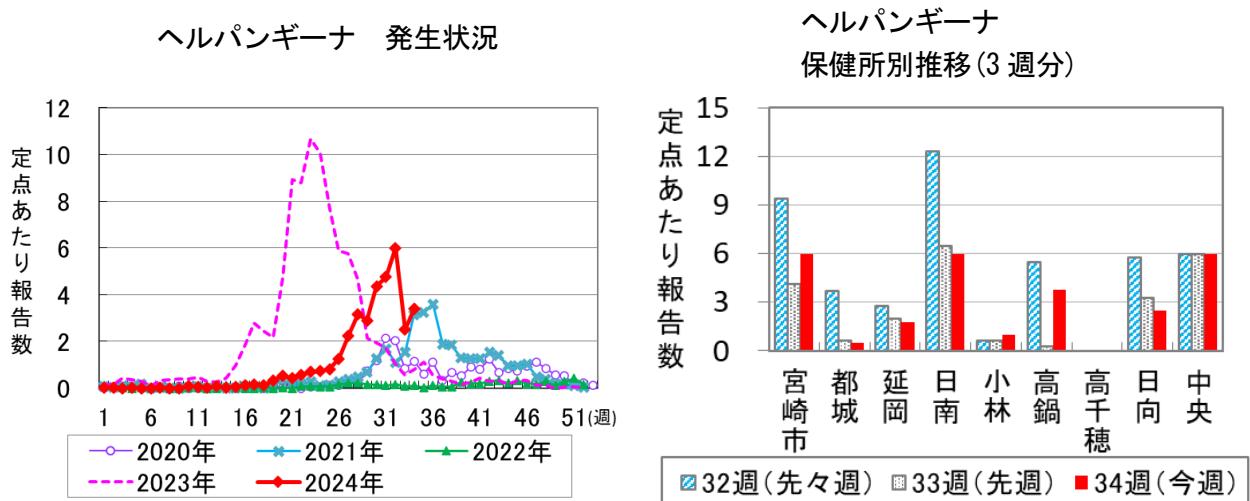


A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 保健所別推移(3 週分)





★基幹定点からの報告★

- マイコプラズマ肺炎：宮崎市(2例)、日向(2例)、延岡(1例)、高鍋(1例)保健所から報告があった。年齢は5～9歳が3例、10～14歳が2例、30歳代が1例であった。
- 感染性胃腸炎(ロタウイルス)：日向保健所から1例報告があった。年齢は0～4歳で病原体の群別は不明であった。

★保健所別 流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患

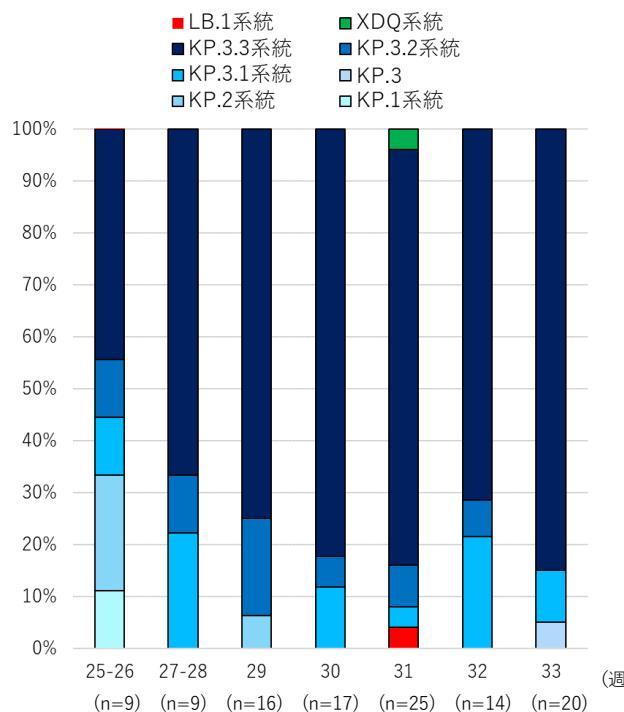
保健所名	流行警報・注意報レベル基準値以上の疾患
宮崎市	ヘルパンギーナ(6.0)
都城	なし
延岡	なし
日南	ヘルパンギーナ(6.0)
小林	なし
高鍋	なし
高千穂	なし
日向	なし
中央	ヘルパンギーナ(6.0)

流行警報レベル開始基準値

- ・ヘルパンギーナ(6)

□新型コロナウイルスゲノム解析結果情報（衛生環境研究所微生物部）

新型コロナウイルスゲノム解析週と検出系統の割合



○第33週は全てがKP.3系統で、
そのうちKP.3.3系統が85%を占めている。

※KP系統はJN.1.11.1の子孫株で、現在、日本、欧米で流行している。

ゲノム解析は概ね前週の検体を用いて実施している。なお、解析検体数が多くない場合は割合の変動が大きくなる。

衛生環境研究所においては、県内医療機関の協力のもと、新型コロナウイルスのPCR陽性となった検体を毎週収集し、ゲノム解析を実施している。

■ 全国2024年第33週の発生動向

□ 全数報告の感染症

1類感染症	報告なし			
2類感染症	結核		170例	
3類感染症	細菌性赤痢	4例	腸管出血性大腸菌感染症	128例
4類感染症	E型肝炎	10例	A型肝炎	1例
	日本紅斑熱	9例	マラリア	2例
5類感染症	アメーバ赤痢	5例	ウイルス性肝炎	5例
	急性脳炎	12例	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	23例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	6例	侵襲性肺炎球菌感染症	17例
	梅毒	134例	破傷風	1例
	百日咳	60例		

□ 定点把握の対象となる5類感染症

定点医療機関当たりの患者報告総数は前週比65%と減少した。なお、前週と比較して増加した主な疾患はマイコプラズマ肺炎で、減少した主な疾患は新型コロナウイルス感染症、RSウイルス感染症、感染性胃腸炎、手足口病及びヘルパンギーナであった。

新型コロナウイルス感染症の報告数は39,295人(8.5)で前週比81%と減少した。岐阜県(17.5)、岩手県(15.1)、鳥取県(14.7)からの報告が多く、年齢群別では15歳未満が全体の約2割を占めた。

手足口病の報告数は11,314人(3.9)で前週比49%と減少した。例年同時期の定点当たり平均値*(1.7)の約2.3倍であった。滋賀県(8.5)、青森県(8.1)、静岡県(7.0)からの報告が多く、年齢群別では1歳から4歳が全体の約7割を占めた。

*過去5年間の当該週、前週、後週(計15週)の平均

宮崎県 感染症情報

(71定点医療機関)

2024年 第34週(08月19日～08月25日)

疾病名	第33週	第34週	宮崎市	都城	延岡	日南	小林	高鍋	高千穂	日向	中央
インフルエンザ	報告数	7	5		4				1		
	定点当り	0.12	0.09	0.00	0.00	0.57	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00
新型コロナ ウイルス感染症	報告数	411	356	65	67	54	27	16	47	21	43
	定点当り	7.21	6.14	4.06	6.70	7.71	5.40	4.00	7.83	10.50	7.17
RSウイルス 感染症	報告数	36	19	5	1	2		2	6	1	2
	定点当り	1.03	0.53	0.50	0.17	0.50	0.00	0.67	1.50	0.00	0.25
咽頭結膜熱	報告数	9	11	2	3			4		2	
	定点当り	0.26	0.31	0.20	0.50	0.00	0.00	1.00	0.00	0.50	0.00
A群溶血性レンサ 球菌咽頭炎	報告数	70	98	43	12	15	11	2	3	5	7
	定点当り	2.00	2.72	4.30	2.00	3.75	3.67	0.67	0.75	0.00	1.25
感染性胃腸炎	報告数	108	137	25	18	7	23	19	14	27	4
	定点当り	3.09	3.81	2.50	3.00	1.75	7.67	6.33	3.50	0.00	6.75
水 痘	報告数	9	6	1	5						
	定点当り	0.26	0.17	0.10	0.83	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
手足口病	報告数	43	66	16	6	16	13	7	4	1	2
	定点当り	1.23	1.83	1.60	1.00	4.00	4.33	2.33	1.00	1.00	0.50
伝染性紅斑	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
突発性発しん	報告数	5	16	7		2	1		4	1	1
	定点当り	0.14	0.44	0.70	0.00	0.50	0.33	0.00	1.00	1.00	0.25
ヘルパンギーナ	報告数	88	122	60	3	7	18	3	15	10	6
	定点当り	2.51	3.39	6.00	0.50	1.75	6.00	1.00	3.75	0.00	2.50
流行性耳下腺炎	報告数	7									
	定点当り	0.20	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
急性出血性 結膜炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00					
流行性角結膜炎	報告数	3	5	1	4						
	定点当り	0.50	0.83	0.33	2.00	0.00					
細菌性髄膜炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
無菌性髄膜炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
マイコプラズマ 肺炎	報告数	3	6	2		1			1		2
	定点当り	0.43	0.86	2.00	0.00	1.00	0.00	0.00	1.00		2.00
クラミジア肺炎	報告数										
	定点当り	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス)	報告数	1	1							1	
	定点当り	0.14	0.14	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	1.00	

インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点:58、小児科定点:36(インフルエンザ/新型コロナウイルス感染症定点を兼ねる)、眼科定点:6、基幹定点:7

●全数把握対象疾患累積報告数(2024年 第1週～34週 保健所受理分)

2類感染症	結核	74例(5)			
3類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	27例(2)			
4類感染症	E型肝炎	2例	A型肝炎	1例	重症熱性血小板減少症候群 7例
	つつが虫病	14例	日本紅斑熱	6例	レジオネラ症 10例
5類感染症	アメーバ赤痢	3例	カルバペネム耐性腸内細菌感染症	4例	クロイツフェルト・ヤコブ病 3例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	11例(1)	後天性免疫不全症候群	2例	侵襲性インフルエンザ菌感染症 4例
	侵襲性肺炎球菌感染症	11例	水痘(入院例)	4例	梅毒 99例(3)
	播種性クリプトコックス症	2例	破傷風	2例	百日咳 38例

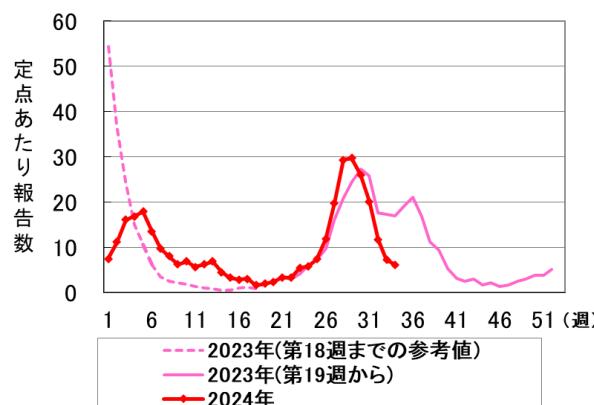
()内は今週届出分、再掲

新型コロナウイルス感染症情報《県内第34週、全国第33週（再掲）》

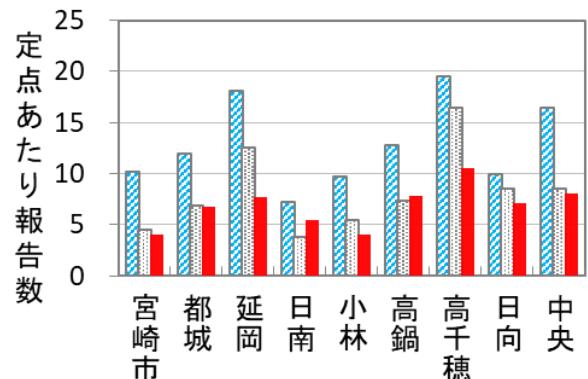
□ 県内第34週 新型コロナウイルス感染症発生動向

8月19日～8月25日までの1週間で356人(6.1)の報告があった。前週比85%と減少し、高千穂(10.5)、中央(8.0)、高鍋(7.8)保健所管内からの報告が多かった。

新型コロナウイルス感染症 発生状況

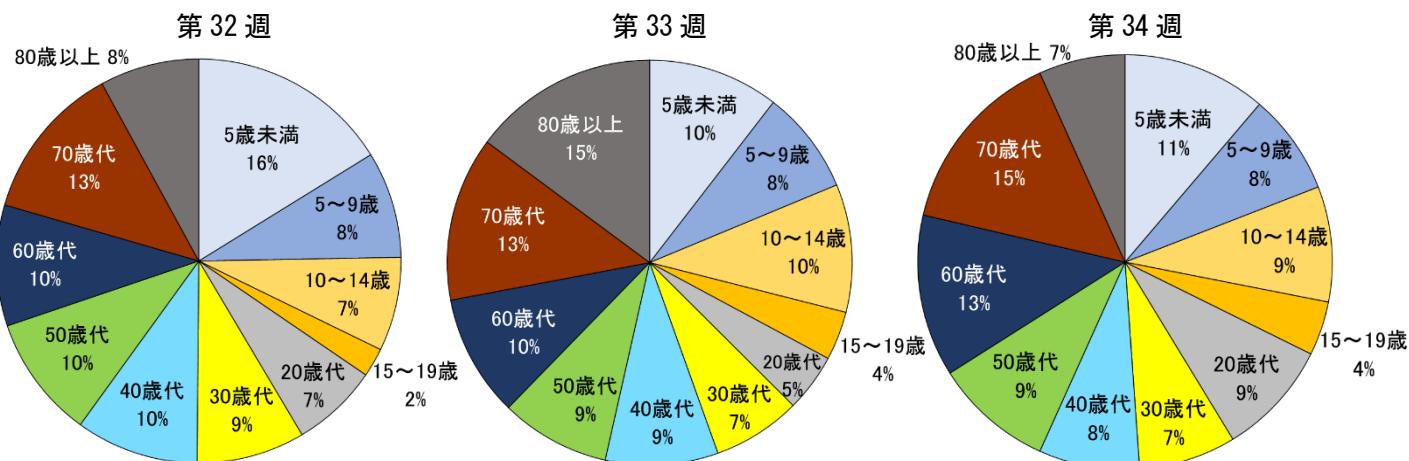


新型コロナウイルス感染症 保健所別推移(3週分)

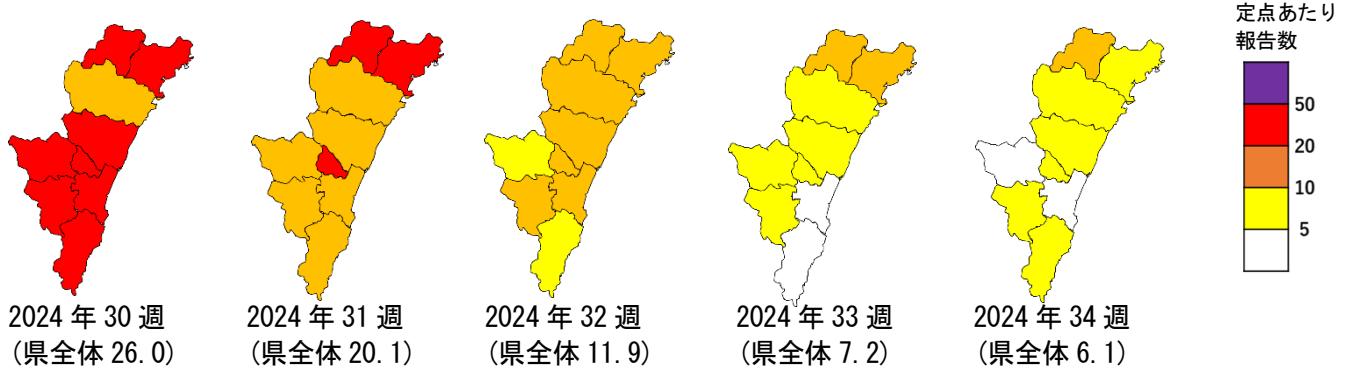


※新型コロナウイルス感染症の2023年第1週～第18週分のデータ
は、定点医療機関からの報告数をもとに算出した参考値

新型コロナウイルス感染症 年齢群別グラフ



保健所別新型コロナウイルス感染症流行マップ 2024年第30週～2024年第34週



* 県独自の基準によるもの

□ 全国第33週 新型コロナウイルス感染症発生動向

8月12日～8月18日までの1週間で39,295人(8.5)の報告があった。前週比81%と減少し、岐阜県(17.5)、岩手県(15.1)、鳥取県(14.7)からの報告が多く、年齢群別では15歳未満が全体の約2割を占めた。